



梅島小だより

7月号
令和8年6月30日
足立区立梅島小学校
校長 瀬谷 智代

一緒に見守り、育てる

校長 瀬谷 智代

梅雨の合間からのぞく青空に、夏の訪れを感じる季節となりました。6月の学校公開には、たくさんの保護者・地域の皆様にご来校いただき、ありがとうございました。また、台風の影響で延期されていた引き渡し訓練を、できるだけ早期に実施したいと考え、13日(土)に実施いたしました。直前の決定により引き渡し場所などの変更もありましたが、保護者の皆様のご協力のおかげで、大きな混乱もなく無事に行うことができました。

さて、子育てに関する様々な名言や格言がありますが、その中の1つに「アメリカインディアンの子育て四訓」があります。

乳児はしっかり肌を離すな

幼児は肌を離せ、手を離すな

少年は手を離せ、目を離すな

青年は目を離せ、心を離すな

『少年は手を離せ、目を離すな』これは、まさに小学生の時期です。子供たちは一層活動的になり、これまでとは比べ物にならないほど、行動範囲も広がります。『自立』に向けての一步を踏み出します。しかし、まだ保護者の方の助けや指導が必要です。だからこそ、お子さんのことをよく知り、理解していることがこの時期の子育てには欠かせません。

そして、さらに大切なのは、たくさんの大人の目でお子さんを見てもらうということです。活動的で行動範囲が広がるこの時期、保護者の方の目だけでお子さんを見ることは難しいものです。ともすると、狭い、偏った見方や理解になりかねません。周りからお子さんについて教えてもらうことにより、それまで気付かなかった良さに気付くことがあります。課題や問題に気付くこともあります。そうやって、お子さんを多面的に理解していくことが、『目を離すな』ということだと思えるのです。こう考えると、『少年は手を離せ、目を離すな』とは、保護者の皆様同士、保護者の皆様と教師、そして地域の皆様と一緒に子供を見守っていくということに尽きるのではないのでしょうか。

梅島小学校の子供たちは、いつも保護者や地域の皆様に温かく見守られています。これからも皆様とともに、子供たちを見守り育てていきたいと思えます。よろしくお願いいたします。